

大阪西北RC古市様、大波加会員ゲストの後藤様、藤本様、小島様ようこそいらっしゃいました。

先週の日曜日、社会奉仕委員会の行事として、竹田先生を迎えての発達障害の講座を開催いたしました。200 数十名の市民が参加していただき、無事終了いたしました。

いま平和の祭典オリンピックが開催されており、日本の若者の活躍で感動ある場面を見させていただいております。

しかし少年による残虐な事件のニュースなどを耳にすると思わず「今どきの若い者は」という言葉が出てきますが、はたして「今どきの若い者」は人生や社会、家庭などに対してどんな意識を持っているのか、そんな疑問に答えてくれるような調査結果があります。それは内閣府が実施した、「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」で、日本、韓国、アメリカ、英国、ドイツ、フランス、スウェーデンの 7 カ国の 13～29 歳までの男女にインターネット調査を行ったもので、日本だけでなく世界の若者との比較ができるのも興味深いです。

「自分自身に満足している」日本は 45%で7カ国中最低、トップはアメリカの 86%です。「自分に長所がある」も日本は 68%で最低、トップはアメリカの 93%、「自分の考えをはっきりと相手に伝えることができる」日本は 48%最低、トップはアメリカ 83%ということで、日本の若者の自信のなさが際立っています。また「つまらない、やる気が出ないと感じた」「ゆううつだと感じた」ではいずれも日本の若者の 70%以上がイエスと答えてダントツで、最小はドイツの 30～40%台、さらに「社会の問題に関与したい」日本は 44%、「社会現象が変えられるかもしれない」日本は 30%と社会変革の意識も日本が最も希薄でした。そうした中で、救いなのは「自国のために役立つと思うようなことをしたい」が7カ国中トップの 54%、「自国人であることを誇りに思っている」が 70%でフランス、ドイツ、韓国を上回って高いレベルになっています。世界でみても日本の若者が活力に欠け、将来に対する夢や希望も希薄ということを感じさせる調査結果がでてきます。

また国土交通省の統計ですが、外を出歩く人の数が減ったらしく、休日で 59.9%、1987年の調査開始以来、最低とされています。特に20代の若者の減少がいちじるしく、これも悟り世代の特徴でしょうか。社会保障など将来に不安を感じ、遊びより貯蓄にお金を回す、堅実で頼もしい気もしますがどこか不憫でもあります。

最後に調査結果ですが、年齢が 13～29 歳と幅があり、年齢層によって違いもあり、それが全体の平均値に影響を与えている可能性も考えられると思いますので、悲観することなく、今どきの若者に期待したいと思います。